

【第 18 回歴史都市防災シンポジウム】

開催日時：2024 年 7 月 13 日（土） 10：00～17：40

開催場所：ハイブリッド開催（衣笠キャンパス以学館 + Zoom）

参 加 者：93 名（対面 25 名、オンライン 68 名）

講 演 者：衣笠総合研究機構 教授 大場 修

概 要：

第 18 回歴史都市防災シンポジウム（2024.7.13）

今年度もハイブリッド開催にて、第 18 回歴史都市防災シンポジウムを実施しました。歴史都市や文化遺産の防災に関する 28 件の研究発表と活発な討議が行われ、日本、海外から 93 名の参加がありました。参加者のご協力のもと、シンポジウムは無事に成功裡に終わりました。

セッションは、防災技術（1）（2）、空間・環境、水害・治水、合意形成・リスクマネジメント、保全・補強、防災計画（1）－（3）のあわせて 9 セッションで、さまざまな研究発表と活発な討議が行われました。

特別講演企画では、本学衣笠総合研究機構教授 大場 修 氏より「備えと構えの民家史 - 水屋とタカを巡って」と題したご講演をいただきました。大場教授のご講演では、水害常襲地域の民家における「水屋」や「タカ」をご紹介いただき、それらが水害時の避難のための「備え」としてだけでなく、来客に見せる空間や地域社会に対する住まいの形としての「構え」でもあること、また地域によって地主層のみの特権性を有している場合と、地主層に限らない対等性を有している場合があることなど、民家史における水屋とタカの位置付けについてお話しいただきました。

なお、シンポジウムで発表された研究成果については「歴史都市防災論文集 Vol.18」として刊行しております。

優秀発表賞受賞者

学生の方、今年 3 月時点で学生であった方の発表の中から、発表内容、発表技術の優れた方を対象に「優秀発表賞」を授与しております。

各セッションの座長と採点担当教員による審査にもとづき、下記の方が受賞されました。

- ・ A 会場：黒田みゆきさん（石川工業高等専門学校専攻科 環境建設工学専攻）
- ・ B 会場：焦英楠さん（千葉大学大学院 博士後期課程）
- ・ C 会場：弘中希さん（立命館大学大学院 理工学研究科）



大場修教授による特別講演の様子



シンポジウム中の様子

【立命館大学 ユネスコチェア「文化遺産と危機管理」国際研修 2024】

開催日時：【オンライン】2024年7月29日（月）～8月22日（金） 各週月・木・金曜日

【オンサイト】2024年8月30日（金）～9月13日（金）（京都・神戸・佐用、平福）

開催場所：立命館大学 衣笠キャンパス 歴史都市防災研究所（ハイブリッド開催）および学外数か所

参加者：13名（更に、イコモスフィリピンとの MoU に基づく参加者2名、本学学生インターン2名）

概要：

立命館大学ユネスコチェア「文化遺産と危機管理」国際研修（UNESCO Chair Programme on Cultural Heritage and Risk Management, International Training Course (ITC) on Disaster Risk Management of Cultural Heritage）の開催は、本年度で第18回目を迎えました。今年度のサブテーマは「災害リスク管理に向けた有形文化遺産と無形文化遺産の関係」でした。昨年に引き続き、参加者の時間と資金の負担を抑えつつ研修効果を上げるため、オンライン研修とオンサイト研修を組み合わせたハイブリッド形式で実施しました。研修には世界各地の国と地域から65名の応募がありましたが、例年同様、書類審査とオンライン面接の二段階選考を実施し、インドネシア、エチオピア、クロアチア、チリ、トルコ、ドイツ、ノルウェー、ハンガリー、フランス、ブータン、マレーシア、ルーマニアから13名の研修生を選抜しました（メキシコから1名が参加予定でしたが病気のため不参加）。これに加え、イコモスフィリピンとの MoU に基づくフィリピンからの2名、そして本学学生インターン2名を合わせ、総勢17名が参加して共に学び合いました。歴防教員をはじめ、国内外の学術・行政機関等において第一線で活躍されている30名以上の専門家を講師としてお招きし、講義や学外視察、演習、ディスカッションを効果的に組み合わせたプログラム構成としました。講師には、文化庁、東京文化財研究所、国立文化財機構文化財防災センター、京都国立博物館、京都府教育庁、神戸市文化スポーツ局、佐用町教育委員会、京都市消防局、先斗町まちづくり協議会、京都大学防災研究所、宮城大学、ICCROM、ICHCAP、EHRF、UNESCO-EPRU、KVPT（カトマンズ渓谷保全トラスト）、EHRF（エジプト文化遺産救済財団）、GTWHI（ジョージタウン世界遺産管理機構）からの専門家が含まれます。

前半のオンライン研修は、文化遺産と危機管理に関する基礎的な知識を身に付けてもらうことを目的としました。各講義の予習のためのビデオ教材を事前に視聴したうえで、月曜日と木曜日のライブ講義に参加することとし、ライブ講義はそれぞれ20分間と短く設定して、ビデオ教材の重要ポイントの説明と質疑応答の時間としました。講義に続いてMentimeterやMuralなどのオンラインツールを活用してワークショップ・グループワークを実施し、講義で得た知識をきちんと理解しているか、設定された状況に応用できるかを確認できるようなプログラム構成としました。さらに、研修生は、毎週の講義の最後に講義の進捗に合わせて出されたタスクをこなす必要があります。研修生は、それぞれ自分が関わっている文化遺産サイトあるいは博物館をケースサイトとしてあらかじめ選び、事前にデータを収集しているので、週ごとのタスクは、各自のケースサイトに関しての作業となります。このタスクは、後半のオンサ

イト研修期間中に各研修生が作成することになっている災害リスク管理計画の導入部となるものです。オンライン研修期間中の金曜日には、タスクやケースサイトのデータ収集などについて、講師と個別相談ができるフィードバックセッションの時間を希望者に割り当て、また、さまざまな質問はeプラットフォーム上で随時受け付けるなどして、万全の準備でオンサイト研修へ参加していただけるようにしました。

今年は、事前学習ビデオや講義資料、タスクの共有、ケースサイトの収集データや課題の提出、質問やコメント等のコミュニケーションは全て、新たに構築したeプラットフォーム上で行き、一元的に管理しました。オンライン研修だけでなく、オンサイト研修中の資料配布や課題提出もすべてeプラットフォームを活用し、研修生と運営側の双方にとって省力化が実現されました。

オンライン研修から一週間の準備・渡航期間において8月30日から開始されたオンサイト研修は、大型台風の接近により心配された欠航などのトラブルもなく、初日から研修生全員が揃って開催することができました（フィリピン参加者一名のみ遅れて到着）。しかし、9月1日に予定されていた清水寺と産寧坂の視察とDIGワークショップは、台風直撃の予報に従って中止し、歴防会場での清水寺の動画視聴と講義に替えました。結果からいえば台風は消滅したのですが、様々な予約のキャンセルなどのために前日の決定が必要な一方で、今回の台風は予想進路が定まらず、やむを得ない判断でした。産寧坂の視察ができないため、DIGワークショップの対象サイトは、前日に文化遺産価値と災害リスクの分析ワークショップをした先斗町とすることとしました。苦肉の策でしたが、同じサイトを対象として価値・リスク分析とDIGに取り組むほうが、サイトをよく理解してDIGに取り組むことができるので、かえって良い結果が生まれました。そのほか、東本願寺鐘楼修理工事、京都国立博物館の動産文化遺産災害対策、沢の鶴酒資料館の免振装置を含む耐震対策、人と防災未来センター、北野異人館の耐震工法、佐用町平福の復興プロセスなど、災害発生前、災害時、災害後の防災サイクルの各フェーズにおける多くの事例を視察し、また、旧堂本印象邸での動産文化遺産レスキューなど、実践的な訓練も行いました。最終日は例年通り研修生によるケースサイトの災害リスク管理計画の発表でしたが、講師だけでなく研修生同士からも質疑やコメントが飛び交い、予定時刻を大幅に超えての終了となりました。

本国際研修事業が立命館大学学生を対象としたグローバル人材育成に貢献するよう、昨年度からインターンシップ事業を始めましたが、今年度は2名の学生がインターン生として参加しました。今年度のインターン生には、講義や視察に参加するだけでなく、研修生と同じようにワークショップやディスカッションに参加し、課題発表にも取り組んでもらいました。文化遺産防災学を学ぶだけでなく、海外専門家とのコミュニケーションの機会としても貴重な経験だったと思います。自由時間の観光や飲食を提案するなど、研修生と非常に積極的に交流する様子が見られました。文部科学省（日本ユネスコ国内委員会）が推進する「ユネスコ研修プログラム」（ユニツイン／ユネスコ・チェアに認定されている大学の修士課程又は博士課程に在籍する学生を対象）への参加などを後押しして、インターン生のキャリアアップに繋がることを期待しています。

国際研修は、文化遺産防災に関する理論や知識とともに実践的なスキルの向上も図るインタラクティブな内容と、DRMサイクルに沿った段階的なプログラム構成、ケースサイトの災害

リスク管理計画作成による実践能力の養成によって、世界各国で活躍する研修生を輩出し、国内外で高い評価を得てきました。立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」は、来年度からその活動内容とターゲットを大きく見直し、新しい取り組みを進めていくこととなります。これまでの国際研修の実績とネットワーク、当研究所の研究成果を生かし、今後も文化遺産と防災に係る国内外の課題に向き合い、成果発信や社会貢献活動を継続してまいります。



仲谷総長との集合写真



京都の紹介と日本での文化遺産防災の重要性の説明



先斗町での災害リスク調査



先斗町まちづくり協議会神戸啓講師と金度源准教授によるコミュニティ防災についての説明



大窪健之教授による歴史都市における伝統的な減災アプローチについての講義風景



先斗町における火災対策を考えるDIGの様子



吉富信太教授による伝統工法の
耐震構造解析についての講義風景



東本願寺鐘樓の修理工事についての説明風景



京都国立博物館での集合写真



旧堂本印象邸での文化財レスキュー実習



沢の鶴酒資料館での免振装置の観察



人と防災未来センターで「観覧者の声」
を書き込む



佐用町平福で佐用町教育委員会藤木透講師
から水害復興プロセスの説明



佐用町での復興プロセス構築の
ワークショップ



ソフィーアブラハム講師によるユネスコの
取り組みについてのオンライン講義風景



イコモスフィリピン参加者による課題発表



インターン生による課題発表



閉会式にて修了証書の授与

【講師一覧】

■海外講師（講義登壇順）

Rohit JIGYASU	Project Manager, Urban Heritage, Climate Change and Disaster Risk Management, ICCROM
Aparna TANDON	Senior Programme Leader First Aid and Resilience for Cultural Heritage in Times of Crisis Digital Heritage, ICCROM
Rohit RANJITKAR	Nepal Program Director, Kathmandu Valley Preservation Trust
Nicole FRANCESCHINI	Programme Manager, World Heritage Leadership, ICCROM
Abdelhamid SAYAD	Chairman, Egyptian Heritage Rescue Foundation (EHRF)
Ang Ming CHEE	General Manager, George Town World Heritage Incorporated, Malaysia
Sophie ABRAHAM	Programme Specialist, Emergency Preparedness and Response Unit Culture and Emergencies, Culture Sector, UNESCO

■国内講師（講義登壇順）

神戸 啓	うさぎのアトリエぴょんぴょこぴょん京・先斗町代表 まちづくり協議会副会長兼事務局長
村口 寿人	京都府教育庁指導部文化財保護課（建造物担当） 課長補佐
降幡 順子	国立文化財機構 京都国立博物館 学芸部 保存科学室長

中村 僚	京都市消防局予防部予防課
石村 智	東京文化財研究所 無形文化遺産部 部長
久保田 裕道	東京文化財研究所 無形文化遺産部 無形民俗文化財研究室長
平岡 義浩	宮城大学 事業構想学群価値創造デザイン学類 教授 基盤教育群長 事業構想学群副学群長
金 玫淑	京都大学防災研究所 社会防災研究部門・都市防災計画分野 民間等共同研究員
前田 佳久	神戸市 文化スポーツ局文化財課
久保田 篤史	神戸市 文化スポーツ局文化財課 係長
藤木 透	佐用町教育委員会 教育課 企画総務室 文化財係
小谷 竜介	独立行政法人 国立文化財機構 文化財防災センター 文化財防災統括リーダー
井川 博文	文化庁文化資源活用課 併 文化財第二課 整備活用部門（建造物） 文化財調査官（命）文化財保存科学室員

■学内講師（講義登壇順）

Lata SHAKYA	衣笠総合研究機構 プロジェクト研究員
金 度源	ユネスコ・コーチェア・プロフェッサー 理工学部 環境都市工学科 准教授
里深 好文	理工学部 環境都市工学科 教授
矢野 桂司	文学部 地域研究学域 教授
大窪 健之	国際研修 プロジェクトリーダー 理工学部 環境都市工学科 教授
藤本 将光	理工学部 環境都市工学科 准教授
大場 修	衣笠総合研究機構 教授
吉富 信太	歴史都市防災研究所所長 理工学部 建築都市デザイン学科 教授
向井 純子	衣笠総合研究機構 客員准教授

■コーディネーター

向井 純子	衣笠総合研究機構 客員准教授
-------	----------------

■サポーター

李 敏	衣笠総合研究機構 専門研究員
-----	----------------

【第18回 みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト】

表彰式：2024年10月19日（土）

開催場所：立命館大学 創思館1階 カンファレンスルーム

応募作品：71作品 101名

協賛：株式会社パスコ、F レンタカー株式会社、株式会社帝国書院、
株式会社ネスト・ジャパン、NPO 法人災害ボランティアステーション日本、
マツモラ産業株式会社、株式会社宝水、セコム株式会社、株式会社柴橋商会、
能美防災株式会社、奥尻島観光協会、株式会社サンオート、ワエストロ株式会社、
やまと産業株式会社、アキレス株式会社、株式会社宮田運輸、
ヤマハ発動機株式会社、京都トヨタ自動車株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、
有限会社オブジイー、アグライア・アロマティックラボ株式会社、
Code for History、株式会社プレス、京都東急ホテル東山、株式会社 clip、
損害保険ジャパン株式会社、株式会社東急コミュニティー（順不同）

後援：国土交通省国土地理院、京都新聞、KBS 京都、京都府、京都市、
公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、一般社団法人人文地理学会、
立命館地理学会、京都府警察、一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構、
国土交通省近畿地方整備局（順不同）

概要：

立命館大学歴史都市防災研究所では、社会貢献の一環として、2007年度より小学生向けの「地域の安全安心マップコンテスト」を実施している。自然災害、交通事故、犯罪など、小学生が自身の興味関心を持って選んだ安全安心に関わるテーマに沿って、身近な大人と共に地域を調査し地図化することを通じて、地域の安全安心を考えてもらうことが本事業の目的である。

本年度は全国から71作品（応募者総数101名）の個性豊かな作品の応募があった。厳選された入賞10作品の表彰式では、審査委員から作品講評が行われ、受賞者は作成の意図や工夫した点を語り、参加者の関心を引きつけた。表彰式は、ライブ配信を行いながら対面で開催した。そこでは、舞台スクリーンに入賞者の名前、学校名、学年、作品タイトル、作品写真のほか、副賞商品の紹介や審査員の講評を投影した。入賞作品のうち7作品については、第28回全国児童生徒地図優秀作品展へ作品を出展した。

研究所では、コンテストの広報の一環で、マップ作成活動に関する出張授業を実施している。本年度は以下の取り組みを実施した。

- ・2024年7月6日（土）、本学文学部の村中亮夫教授（当研究所副所長）が洛星高等学校1～2年生7名の皆さんを対象に、防災をテーマにした地域調査の方法を学ぶ授業を実施しました。
- ・2024年8月3日（土）・4日（日）、大阪ガスネットワーク株式会社と共同で、本学政策科学部の豊田祐輔准教授のゼミが大阪府豊中市にある専門店街「せんちゅうパル」で開催された「自由研究ストリート」において、「避難と緊急時の食を学ぼう」と題した防災マップ作り体験や、チラシを利用した紙食器作りなどのワークショップを開催しました。
- ・2024年8月9日（金）、株式会社SHIFTが主催する「シフトモ Kids サマースクール

2024」において、本学文学部の村中亮夫教授（当研究所副所長）が小中学生 28 名を対象に、防災まち歩きイベント「てくてく防災さんぽ@麻布台」を実施しました。

- 2024 年 8 月 21 日（水）、たつの市立龍野文化資料館（兵庫県たつの市）が企画する「たつのふるさと探検隊」（主催：たつの市教育委員会）において、本学理工学部の金度源准教授・藤本将光准教授、文学部の村中亮夫教授（当研究所副所長）が 26 名の小学生を対象に、防災まち歩きイベント「龍野城下町『てくてく防災さんぽ』」を実施しました。
- 2024 年 9 月 18 日（水）、北海道奥尻高等学校との連携のもと、本学文学部の村中亮夫教授（当研究所副所長）が高大連携講座として 11 名の高校生を対象に、「防災まち歩き」の特別授業が行われました。
- 2024 年 9 月 20 日（金）、京都府立東稜高等学校との連携のもと、本学文学部の花岡和聖教授が高大連携企画として約 40 名の高校生を対象に、「災害対応とまちづくり」の授業が行われました。



吉富所長より賞状授与



協賛企業様より副賞授与



理工学部宗本晋作教授より講評



集合写真

【歴史都市防災研究所定例研究会】

歴史都市防災研究所では、研究メンバーがそれぞれの研究成果について報告をする場として、研究会を定例開催している。発表者および参加者は、当研究所所属の教員、専門研究員等の若手研究者、学生、および客員研究員として当研究所の活動に参画いただいている学外の関係者である。また、今年度より平日開催に加え、3拠点（衣笠・OIC・BKC）での対面参加、そして3拠点をZoomで繋ぎ、交流促進の場となることを目指した。各研究部会・プログラムで進めている研究プロジェクトについて、多岐にわたる専門分野の研究者が活発に意見交換を行う機会として、来年度以降も継続予定である。今年度開催した各回の内容については、以下のとおりである。

2023 年度

【第7回定例研究会】

開催日：2024年3月2日（土） 13：30～16：30

開催場所：ハイブリッド開催（朱雀キャンパス対面+Zoom）

発表者および報告内容：

成果報告、評価委員会評価

吉富 信太（歴史都市防災研究所 所長）

各部会からの報告

A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会

C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会

評価委員からの内部評価

2023年度ユネスコ・チェア国際研修実施報告

2024年度ユネスコ・チェア国際研修開催に向けた進捗報告

2024 年度

【第1回定例研究会】

開催日：2024年4月6日（土） 10：00～11：30

開催場所：オンライン（Zoom）

発表者および報告内容：

メンバー挨拶：向井 純子（衣笠総合研究機構 客員准教授）

各部会からの報告

発表者および報告内容：

・A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

泉 知論（理工学部 教授）

「律移動ロボットのアルゴリズムとコンピューティングプラットフォーム」

・ B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会

大窪 健之（理工学部 教授）

「既存資源による観光地での帰宅困難者支援～京都市における緊急避難広場の一時滞在施設化の可能性～」

・ C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会

永野 聡（産業社会学部 准教授）

「自己紹介+今後の歴史都市防災研究所での調査研究活動に関して」

【第 2 回定例研究会】

開 催 日：2024 年 5 月 10 日（金） 16：30～18：00

開催場所：拠点会場で対面参加、3 拠点をリモート接続（Zoom）

テ ー マ：能登半島地震タスクフォースからの報告

令和 6 年能登半島地震の文化遺産被害に関する調査報告

発表者および報告内容：

・ 能登半島地震タスクフォースについて

吉富 信太（理工学部 教授）

・ 地盤グループ

深川 良一（総合科学技術研究機構 客員教授）

・ 建物・火災・まちづくりグループ

吉富 信太（理工学部 教授）

大窪 健之（理工学部 教授）

金 度源（理工学部 准教授）

持田 泰秀（理工学部 教授）

・ GIS グループ

花岡 和聖（文学部 教授）

【第 3 回定例研究会】

開 催 日：2024 年 6 月 7 日（金） 16：30～18：00

開催場所：拠点会場で対面参加、3 拠点をリモート接続（Zoom）

メンバー挨拶：

伊藤 真一（理工学部 講師）

発表者および報告内容：

・ A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

田畑 勇也（文学研究科 博士課程前期課程 3 回生）

「京都市北区柏野学区における京町家の継承と課題」

・ B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会

吉富 信太（理工学部 教授）

「伝統木造建物の制振補強法」

・ C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会

李 敏（衣笠総合研究機構 専門研究員）

Study on Disaster Risk Management of World Cultural Heritage: Understanding the Hazard-Related Characteristics, Multiple Hazards, Lessons Learned from Past Disaster Cases, and Issues in Developing DRM Plans through a Questionnaire Survey

【第4回定例研究会】

開催日：2024年10月4日（金） 16：30～18：00

開催場所：拠点会場で対面参加、3拠点をリモート接続（Zoom）

発表者および報告内容：

・ A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

井上 萌来（文学研究科 博士課程前期2回生）

「京都市内の細街路における3次元都市モデルを活用したセットバック事業」

・ B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会

高尾 宗志（理工学研究科 博士課程前期課程2回生）

「清水寺における斜面崩壊リスクとデータの活用」

・ C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会

木村 智（理工学部 講師）

「衣笠キャンパス関連図面のアーカイブ化と近代建築としての評価プロジェクト」

【第5回定例研究会】

開催日：2024年12月13日（金） 16：30～18：00

開催場所：拠点会場で対面参加、3拠点をリモート接続（Zoom）

発表者および報告内容：

・ A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

小川 圭一（理工学部 教授）

「歴史都市における道路形成順序が道路構造と交通事故発生状況に及ぼす影響に関する分析」

・ B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会

持田 泰秀（理工学部 教授）

「ポリウレタ塗装での木部材の構造性能向上に関する研究」

・C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会

竹内 理登（理工学研究科 修士前期課程 2 回生）

「豊岡市出石重要伝統的建物群保存地区での街頭消火器配置計画」

【第 6 回定例研究会】

開 催 日：2025 年 2 月 28 日（金） 13：00 ～（予定）

開催場所：オンライン開催

発表者および報告内容：

歴史都市防災研究所 合同修士論文・卒業研究発表会

【第 7 回定例研究会】（予定）

開 催 日：2025 年 3 月 6 日（木）

開催場所：歴史都市防災研究所 地下カンファレンスルーム

発表者および報告内容：

成果報告、評価委員会評価

吉富 信太（歴史都市防災研究所 所長）

各部会からの報告

A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会

C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会

2024 年度ユネスコ・チェア事業報告

2024 年度マップコンテスト事業報告

2024 年度シンポジウム事業報告

2024 年度能登地震タスクフォース報告

評価委員からの内部評価

